

令和4年度

全国生涯学習センター等研究交流会

令和4年5月26日（木曜日）参加数：76名

主催：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
全国生涯学習・社会教育センター等協議会

生涯学習センター等の相互の連携協力を推進するため、全国の生涯学習センター等の代表者・職員等が集い、ライブ配信にて当面する課題について研究協議等を行った。

テーマ「住民の学びと活動の拠点として位置付く生涯学習センター等の新たな役割」

報告

「令和2年度・3年度 人口減少時代における生涯学習推進センター等の新たな役割に関する調査研究」の報告

[報告者] 大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター 教授 岡田 正彦



岡田講師

当調査研究の委員の岡田氏から、都道府県生涯学習推進センターと指定都市教育委員会事務局が設置しているセンターを対象に実施された調査研究の報告が行われた。

参加者の声

- ・統計的な面からの分析に加え、今の生涯学習センターに求められている新たな役割を知ることができて良かった。
- ・センターとして重要なことは、幅広い連携を行い、ネットワークをつなぐ調整役としての役割を果たすことであると再認識した。

講義・事例研究

地域課題解決に取り組む生涯学習センター等の実際

[コーディネーター]

東北学院大学

名誉教授 水谷 修

[事例発表者]

鳥取県立生涯学習センター（県民ふれあい会館）

生涯学習係長 檜垣 邦世

新潟市教育委員会 生涯学習センター

所長補佐 山本 英二

甲南大学

学長補佐 社会連携機構長

兼地域連携センター所長 石川 路子



檜垣講師

檜垣講師からは、センター職員と市町村教育委員会の担当者がともに企画、実施している「とっとり県民カレッジ講座（市町村連携）」について説明があった。

参加者の声

- ・地域課題解決の一步として、いろいろな人に関わってもらう、連携することが大切だと分かった。
- ・受講者だけでなく、担当者も楽しむことで自発的な活動につながるということは、持続的に事業をつづけるために重要なことだと思った。

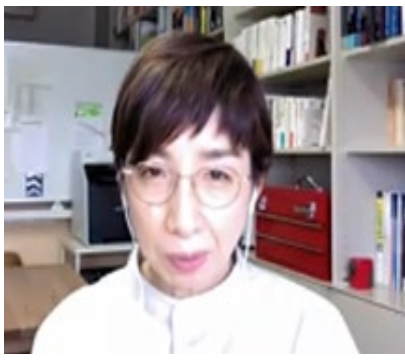


山本講師

山本講師からは、平成6年度に開設された「にいがた市民大学」の概要と市民が講座のテーマや内容を提案し、講座の企画に参加している「市民企画講座」について話が合った。

参加者の声

- ・市民大学のプログラムから市民グループに発展する取組は、公民館事業に通じるものがあり、先行事例として参考になった。
- ・講座に参加するだけでなく、学びの成果を人づくりに、地域づくりにつなげるという手本を示していただいた。



石川講師

石川講師からは、5自治体（神戸市、堺市、和歌山市、徳島市、岡山市）の地域課題について、大学生と地元高校生がチームとなり、大学教員等のサポートを得つつ考え、SDGsの視点から持続可能な解決案を提案するプロジェクト「関西湾岸SDGsチャレンジ」について話があった。

参加者の声

- ・多くの県・市・企業等と地域連携協定を結び、社会貢献活動・人材育成に取り組んでいることが素晴らしいと思った。
- ・大学生や高校生が主体で活動しつつも、サポート体制が整っていて勉強になった。



水谷コーディネーター

水谷コーディネーターからは、三つの事例発表を踏まえ、生涯学習センター等の地域課題解決に資する実践に必要な改善のポイント、取組等について話があった。

参加者の声

- ・自治体の生涯学習センター等と大学のセンターとの連携によって、地域の課題に対応した新たな学びや活動の循環につながる可能性について考えることができた。
- ・県生涯学習センターと大学生涯学習センターの違いを考えるきっかけとなった。

特別講演

地域課題解決に向けて－生涯学習センター等のこれから－

〔講師〕 杏林大学 客員教授 ルーテル学院大学 客員教授 清原 慶子



清原講師

清原氏からは、第11期中央教育審議会生涯学習分科会の審議過程から、各省庁の政策的動向に共通してみられる生涯学習・社会教育に関わる傾向や具体的施策に触れながら、誰一人取り残さず人々のウェル・ビーイングを支え地域課題の解決を目指す重要性について話があった。

参加者の声

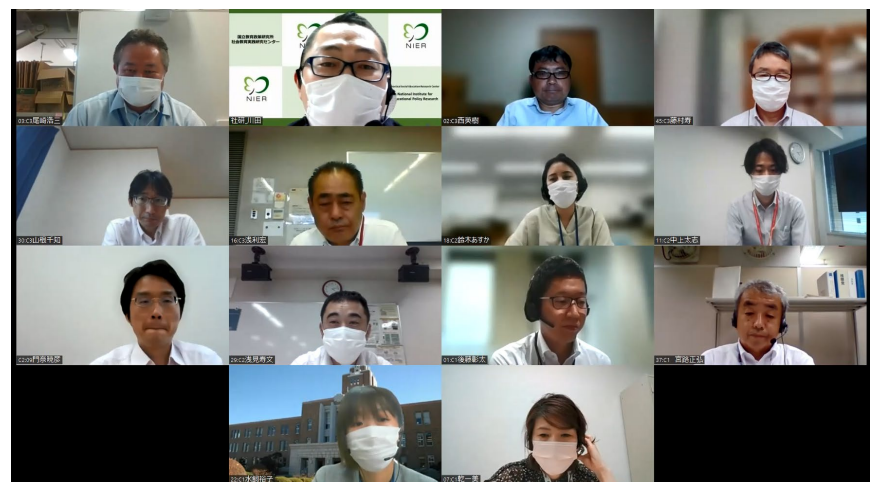
- ・「誰一人として取り残さない」、「傾聴」等、印象に残る言葉がたくさんあった。生涯学習、社会教育のあり方について、改めて考えさせられた。
- ・社会的包摂の観点から生涯学習を捉えることは、教育機関で働く者として常に心に留めておかなければならない大切なことだと再認識した。

グループ協議

生涯学習センター等の住民の学びと活動の拠点としての新たな役割

【協議テーマ】

- A デジタル・ディバイド（情報格差）解消に向けて生涯学習センター等の新たな取組について
- B 地域住民に届く学習情報の提供・広報の仕方について
- C 若者が集い学びの場となるための取組について
- D 地域課題解決へ導く講座の在り方について



受講者が、申込時に選択した協議テーマについて、ウェブ会議システム上で分科会形式の協議を行った。グループ協議用のワークシートを画面上に共有しながら、「現状の課題または協議テーマに関心を寄せる理由」、「課題を解決するためにどのような取組が必要だと考えられるか」、「所属センター等で取り組みたいこと・協議の中で新たに考えたこと・気づき」等について、活発な意見交流・情報交換を行った。その後、グループで協議した内容を発表した。

参加者の声

- ・自治体の生涯学習センターと大学がどのように協働できるか、という点について有意義な議論ができた。
- ・様々な地域の生涯学習に関わる方と実際に話をする機会が良かった。集客（講座を周知し、人を集めること）の難しさは、全国共通のものであることもわかった。関心を持ってもらうためのアドバイスをこの交流会を通じて得ることができた。
- ・現場で活躍している皆さんとの交流は大変楽しいものだった。このような機会をどんどん増やして行って、新しいネットワーク、コミュニティづくりに生かしていけたら良いと思う。